岩手県隊友会
「第35回防衛セミナーin盛岡」に参加

岩手県隊友会（会長・橋本勇）は12月14日、盛岡市内で開催された東北防衛局主催の「第35回防衛セミナーin盛岡」に多くの会員が参加・聴講した。第1部では、防衛省防衛研究所主任研究官・阿久津博康氏による「最近の朝鮮半島情勢：北朝鮮の戦略的動向」を、第2部では、空自山田分屯基地司令・佐伯太一2佐による「航空自衛隊の概要と山田分屯基地の役割」と題する講演を聴講した。現下の厳しい安全保障環境の中で、自衛隊の活動に関する国民の支持は不可欠であり、本セミナーは隊友会をはじめとする協力諸団体の役割を再認識する良い機会であった。（滝沢支部長・南野勇）

鹿児島県隊友会
グランドゴルフ大会を開催

鹿児島県隊友会（会長・村山文彦）は11月23日、薩摩郡さつま町において「平成29年度県グランドゴルフ大会」を開催した。前日の雨が打って変わって素晴らしいグランドコンディションとなり、自衛隊家族会員を含む12個支部、約200名の参加を得た。開会式には日高正勝さつま町長が列席され、新入隊員壮行会や町内の慰霊塔清掃を実施していることに感謝の言葉を述べられた。大会は紫尾山降ろしの寒風の中、溌剌としたプレーが行われ、結果は団体優勝鹿児島地区協議会C、第2位姶良支部A、第3位薩摩川内支部Bであった。最高齢者賞として姶良支部の91歳になる小川勢津夫氏が特別賞を受賞した。（事務局次長・後藤光一）

200名が参加したグランドゴルフ大会

函館地方隊友会
連隊長・地本長を囲む懇親会を実施

函館地方隊友会（会長・笹森時太郎）は12月9日、第28普通科連隊長・阿部慎治1佐と函館地本長・大石徹郎1空佐等との懇親会を今年も連隊長官舎をお借りして実施した。本会の目的は、連隊長と地本長の1年間の慰労と相互の連携強化を図ることであり、隊友会からは平野名誉顧問をはじめ会長以下11名が、また、現職は連隊長や幕僚等9名の合計20名が官舎に押し掛けた。隊友会の参加者は飲み物や一品料理などを持ち込み、更にメインの鍋料理等が加わり、会は逐次戦闘加入方式（ウエルカムドリンク）で始まった。平素から隊友会と現職との意思疎通を密にし、今後とも連携強化を図っていきたい。（会長）

宮城県山元支部
防災訓練に参加

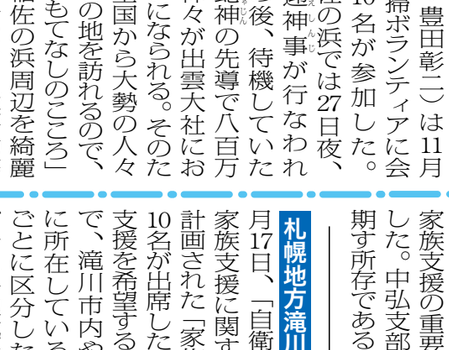
（支部長・松田正雄）は11月19日、山元町防災訓練に支部長以下18名が参加した。東日本大震災で700名近い犠牲者を出した同町では今年度は津波からの避難行動を主体とする訓練を防災拠点の山下地域交流センターで実施した。隊友会は、陸自第2施設団第301水際障害中隊に協力、避難民への炊き出し支援を行い、おにぎり等約400食を提供し町民等から感謝された。毎年実施している危機管理研修会等の機会を捉え、防災意識向上に努めていきたい。（支部長）

鳥取県西部地区会

事前の防災訓練ミーティング

（地区会長・野川正樹）は11月19日、中国電力島根原発の重大事故を想定した鳥取・島根両県と6市による「鳥取県原子力防災訓練」の避難訓練に会長以下10名が参加した。本訓練には38機関と住民約310名が参加し、隊友会は実施本部の要請を受け住民の避難誘導を担当した。悪天候のため陸自ヘリでの住民の避難は中止されたが、大がかりな避難訓練は大きな成果を収めて終了した。（広報担当・田村博男）

愛知県豊川支部


段ボールベット作成を指導する会員

（支部長・山田完治）は11月25日、蒲郡市立西浦小学校において実施された「市民総ぐるみ防災訓練」に、支部長以下4名が参加した。隊友会は段ボールベッドの作成について指導するとともに、スマホゴーグルによる災害疑似体験を担当し、住民の知識・意識向上に寄与した。また、当日参加した伊藤会員はこの経験を活用し、地区防災訓練においても段ボールベッドの作成を指導し、地域住民の防災意識向上に努めた。（広報幹事・岸本隆志）

漢検 日本漢字能力検定【検定問題】

準1級（大学・一般程度）

(一) 次の傍線部分の読みを**ひらがな**で記せ。1～2は**音読み**、3は**訓読み**である。
1 万事亨通ならんことを願う。
2 旧市街は城壁に囲まれている。
3 神々しいばかりの燦らかさである。

(二) 次の傍線部分の**カタカナ**を**漢字**で記せ。
1 自信はモロくも崩れ去った。
2 外国居留の中国人を**カキョウ**と言う。

2級（高校卒業・大学・一般程度）

(一) 次の一線の**漢字の読み**を**ひらがな**で記せ。
1 非営利団体の設立に参画する。
2 山間の狭小な畑を耕す。

(二) 次の一線の**カタカナ**を**漢字**に直せ。
1 夜のヤミに紛れて逃げた。
2 体力が次第にオトロえてきた。

（解答は、この面）

地域社会協力活動

宮城県松島支部

曹友会との集合写真

（支部長・前田健二）は11月1日、支部長以下12名が反町分屯地曹友会と協力して、東北本線愛宕駅から反町分屯地までの間の道路とその周辺の清掃奉仕活動を実施した。通勤・通学路として多くの地域住民が利用している道路等を、曹友会の32名と一緒に清掃を実施して、地域の美化に貢献するとともに、曹友会との連携も強化することができた。（支部長）

香川県丸亀支部

大注連縄を作成中の会員

（支部長・大西邦彦）は11月9日、丸亀護国神社の大注連縄等を作成し奉納した。注連縄の作成前には安全祈願を行い、5mの大注連縄、社殿用の注連縄、手水舎、狛犬の4体の注連縄を作成した。作成は順調に進捗し昼前には石柱への飾り付けを完了。作業終了後参加者全員による昼食・懇談を行い散会となった。支部は、平成11年から毎月15日の招魂祭支援・清掃奉仕活動を実施し、この注連縄作成・奉納は平成12年から18回目となった。（支部長）

島根県大社支部

漂着物等の回収を行う会員

（支部長・豊田彰二）は11月25日、杵築海岸の稲佐の浜清掃ボランティアに会員10名が参加した。稲佐の浜では27日夜、神迎神事が行なわれその後、待機していた龍蛇神の先導で八百万の神々が出雲大社にお着きになられる。そのため全国から大勢の人々がこの地を訪れるので、「おもてなしのこころ」で稲佐の浜周辺を綺麗にし、人々を気持ちよく迎えられるように漂着物等の回収を行った。漂着物等は分別し、集積所に運搬して寒風の中での活動を終えた。（支部長）

群馬県箕郷支部

（支部長・前橋富彦）は12月18日、会員7名が参加して高崎市箕郷町の知的障害者福祉施設「社会福祉法人はるな郷」において、第48普通科連隊と相馬原駐屯地曹友会22名とともに、今年で50回目となる餅つきの慰問を行った。もち米約45kgを2つの臼を使って1時間半程でつきあげたが、途中では入所者も代わる代わる餅つきを体験して楽しんでいた。この訪問は翌日の新聞に掲載され、「国民と自衛隊とのかけ橋」としての隊友会を広報することができた。（支部長）

自衛隊諸業務への支援

山形県寒河江支部

（支部長・工藤三郎）は11月23日、寒河江市文化センターで開催された寒河江市自衛隊協力会主催の「ふれんどしっぷコンサートinさがえ」を支援した。これは例年第6音楽隊が行っている市内の学校（小・中・高）との合同演奏会であり、今年は県立寒河江高等学校吹奏楽部との合同演奏会となった。隊友会は、会場準備から入場整理、撤収まで担任、円滑な演奏会運営に大きく貢献した。会場には多くの市民、音楽愛好者が詰めかけ盛会の内に終了した。（広報幹事・芳賀吾朗）

第6音楽隊と高校生とのコラボ演奏

青森県中弘支部

自衛隊家族会とともに参加した会員

（支部長・三上知彦）は11月25日、弘前駐屯地及び市内で行われた「家族支援実動訓練」に自衛隊家族会等とともに総勢53名が参加した。訓練は、想定に基づき自衛隊家族会に対する災害派遣隊員家族の安否確認を依頼する電話から開始され、該当家族に実際に面談し安否を確認、その内容を部隊に報告する一連の訓練であった。ある奥様から、実際に来てお話していただけることは安心で心強いとのコメントをいただき、家族支援の重要性を認識した。中弘支部は今後この家族支援体制に万全を期す所存である。（事務局長・永井達雄）

札幌地方滝川支部

隊員・家族と意見交換を行う会員

（支部長・北川裕己）は12月17日、「自衛隊における災害派遣等派遣隊員の家族支援に関する協定」に基づき、滝川駐屯地で計画された「家族支援顔合わせ会」に、支部長以下10名が出席した。会同は、今年度異動などで新たに支援を希望することとなった隊員・家族20名が主体で、滝川市内や近隣に所在している地域ごとに区分したテーブルに各地域を担当する支部会員が直接同席し、支援要領についての質問・疑問点など意見交換を行い、支援体制を確認した。（広報幹事・割出政明）

漢検 日本漢字能力検定【解答】

準1級
(一) 1 こうつう　2 そうい　3 あき
(二) 1 脆　2 華僑

2級
(一) 1 さんかく　2 きょうしょう
(二) 1 闇　2 衰

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
http://www.kanken.or.jp/kanken/
検定日 6月17日(日)　申込締切日 5月17日(木)協会必着
「漢字検定」「漢検」は登録商標です。

慰霊・顕彰等

長野県塩尻支部

（支部長・岩下昇）は11月25日、塩尻市歌碑公園内にある忠魂碑の清掃作業を会員5名で実施した。従来、塩尻短歌館・広丘小学校・町内会・遺族会等で清掃しているが、この時期は落ち葉の量が多いことから隊友会単独での清掃となり、落ち葉の片付けを主に作業を実施した。作業終了後、参加者全員で参拝し御霊の安らかなることを祈念して清掃活動を終了した。（支部長）

山口県山口支部小郡分会

（分会長・伊藤勇）は11月25日、米山自然公園の一斉清掃に合わせ、その一角にある忠魂碑の秋期清掃と広場の整地作業を行った。その後、一斉清掃に合流し、市民とともに植栽場所の下草刈り等を実施した。忠魂碑の清掃は、分会立ち上げ以来の恒例行事であり今年で16年目である。冬には公園内の桜の整枝作業を予定しており、公園を守る会への奉仕作業のほか、学童見守りで地域社会と連携・交流を図っている。（分会長）

忠魂碑前での集合写真

群馬県前橋支部

作業を終えての集合写真

（支部長・井出三男）は12月2日、特別会員、女性会員を含む15名が参加して、前橋市大手町にある忠霊塔・護国神社周辺の清掃奉仕を昨年に引き続き実施した。当日は、この冬一番の寒気団による冷たい風の吹く中ではあったが、持参の清掃用具とゴミ袋を用いて綺麗に敷地内を清掃した。その後、護国神社で供花し、御霊の安らかなることをお祈りした。終了後、宮司から感謝とねぎらいの言葉をいただき、支部として地域社会に貢献できた。（会員・青木章）

東京都八王子支部

（支部長・高見道男）は12月5日、武蔵野陵墓地において清掃奉仕を実施した。清掃奉仕は、平成15年に隊友会、防衛協会等防衛関係協力団体有志が集まり、何か地元に密着した活動をとの趣旨で毎年実施しているもの。今回は、東京地本八王子地域事務所の3名を含む41名が参加した。作業開始に先立ち、総員で武蔵野陵・多摩陵へ墓参した後清掃作業を実施し、途中昼食休憩を挟んで午後3時に終了した。終了後、宮内庁職員からお礼のあいさつがあり、記念品を頂いた後解散した。（広報担当・石田可尺）

武蔵野陵墓地前にて記念写真

研修会等

宮城県多賀城支部大代分会

（分会長・高橋秀秋）は11月26日会員等14名で、また塩釜支部（支部長・佐藤源一）は、12月3日に会員等19名でそれぞれ女川原子力発電所を研修した。同発電所は、東日本震災時には13・8mの津波が押し寄せたが、海抜14・8mの敷地にあったことにより被害を免れた。その後「新規制基準」等に対応し、海抜29mの防潮堤や約1万㎡の貯水槽の建設、ガスタービン発電機設置など、安全性向上のための対策を進めている。（大代分会事務局長・加賀與一、塩釜支部長）

所員から説明を受ける会員

山形県寒河江支部

（支部長・石澤政光）は12月10日、恒例の門松作り講習会を開催した。これは、正月縁起物の作成技術を会員に付与し、これを地域に広めることで隊友会活動への理解・浸透を図るもの。本講習会は、平成5年から当支部の羽角秋男会員（84歳）が講師となり毎年実施しているもので、今回は会員6名、山形地本2名、自衛隊家族会1名が参加した。参加者は、「竹材の伐採から門松作りの手順・着意事項」について指導を受け、有意義な親睦・交流となった。（事務局次長・逸見晴夫）

門松作りに参加した会員等

東京都荒川支部

（支部長・杉本洋平）は12月15・16日、大田区立男女共同参画推進センターで開催された全国女性会館協議会主催「災害（復興）・防災に関する講師養成研修」に参加した。講師は、男女共同参画の視点からの防災の取り組みについて、その考え方や歴史的経緯、国・地方公共団体の施策、地域の事例等について広く講義した。研修では、避難所運営など被災地の女性リーダー・役員を増やし、男女相互の課題を解消するだけでなく、高齢者、子供、障がい者等へ配慮した災害支援を行うための方策について講義と参加者同士の議論を通じ学習した。（支部長）

親睦会等

岩手県宮古支部

（支部長・三浦郁男）は11月25日、平成29年度岩手県隊友会親睦行事を宮古山田分屯基地（第37警戒群）で実施した。県連会長橋本勇以下8個支部から47名が参加し、空自の概要説明、基地内見学を行い、部内喫食で隊員と会食・懇談するなど隊員との触れ合い、基地での1日を満喫した。（会員・金澤竹治）

開会式

宮城県田支部

（支部長・柳澤正博）は11月11日、槻木葛岡公園で第15回グランドゴルフ大会を開催した。寒波の中最高齢86歳と女性2名を含む会員25名が参加して全員が真剣なプレーを展開し、絶妙な一打やホールインワンなどに歓喜の声が響き渡り、寒さも吹き飛ばすほどであった。競技の後に表彰式と昼食会を実施し、近況等を語り合い親睦を深めた。（事務局長・小野寺俊恵）

札幌地方岩見沢支部

（支部長・藤原恒雄）は12月9日、市内のホテルサンプラザにおいて、恒例行事の忘年会を会員43名、岩見沢駐屯地から司令以下30名、特別会員の衆議院議員や市議会議員4名、総勢77名の参加を得て開催した。会は、支部長挨拶、司令等祝辞に始まり、祝宴となった。司令から最近の北朝鮮情勢、衆議院議員渡辺氏からは自衛官の若年定年制度の見直し等について話があり、「市民と自衛隊とのかけ橋」となるべく活動している支部にとって力強いものとなった。（副支部長・高柳敏光）

鹿児島県伊佐支部

（支部長・鶴薗成人）は12月16日、各関係機関の有志25名を加え、支部としては過去に例を見ない規模で伊佐市合同大忘年会を実施した。今年度実績の確認、次年度への抱負等の発表があり、各人が隊友会の果たすべき目標を再認識することができた。県隊友会会長と家族会女性の参加もあり、終始和やかな雰囲気の中で親睦と絆を深めた。（会員・西定義）

和やかな雰囲気の中での忘年会